

地質調査所研究資料集

この資料集は、地質調査所資料室（電話（0298）54-3605）で閲覧できます。

地質調査所研究資料集 No. 169

吉井守正・須藤定久（1991）

TG-DTA データの補正・図化用プログラムに関する技術資料. 27 p., 6fig., 3 tab.

内容紹介

TG-DTA 値の補正は、ブランク資料のデータから実験時の電気炉のクセを読み取って行う。したがって自動化された TG-DTA 装置の場合でも、最終的な補正は人手による作業が必要となる。筆者らは、ファイルに保存されている TG-DTA 実測値を、対話型計算処理によって補正し、結果をプロッタで図化するとともに、補正に用いた数値も別のファイルに保存して、同一の補正条件で TG-DTA 図をいつでも再現できるプログラムを作成した。これによって、長年蓄積された熱分析データを、研究資料として今後活用する道が開けたことになる。筆者らが作成したプログラムのあらし、及びその技術的な点について述べ、付録にプログラムリストを掲げた。

地質調査所研究資料集 No. 170

宮崎光旗（1992）

SEG Y 磁気テープ入力プログラム —mtin. c—。18 p.

内容紹介

反射法地震探査データ等の情報交換用フォーマットとして最も流通性のある様式は、1975 年米国物理探査学会（SEG : Society of Exploration Geophysicists）が反射法地震探査記録マルチプレックスデータの交換用として決めたデジタル磁気テープフォーマット SEG Y である。ここで用いられている文字や数値表現は EBCDIC と 16 を基数とする浮動小数点数表現であり、今日多くのワークステーションや PC で用いられている ASCII や IEEE 754-1985 による浮動小数点数表現とは異なっている。また、交換媒体として磁気テープとしており、現在の大容量磁気ディスクや CD-ROM 等に代表される新しい記憶媒体、しかもそれらのほとんどがランダムアクセス可能な記憶、は想定されていない。ここでは、それらのギャップを埋める一里塚として SEG Y フォーマット磁気テープデータを、文字コード ASCII、数値表現 IEEE 754-1985 採用の UNIX 系ワークステーションに取り込むための、C による入力プログラムを作成した。

地質調査所研究資料集 No. 171

宮崎光旗（1992）

SEG Y/TMS ダンププログラム —txdump—。31 p.

内容紹介

反射法地震探査データ等の情報交換用フォーマットとして最も流通性のある様式は、1975 年米国物理探査学会（SEG : Society of Exploration Geophysicists）が反射法地震探査記録マルチプレックスデータの交換用として決めたデジタル磁気テープフォーマット SEG Y である。しかしながら、ここで用いられている文字や数値表現は、今日多くのワークステーションや PC で用いられている ASCII や IEEE 754 による浮動小数点数表現とは異なっている。このギャップを埋め、UNIX 系ワークステーションに反射法地震探査等 SEG Y 磁気テープデータを入力するためのプログラムは、「SEG Y 磁気テープ入力プログラム—mtin. c—」（宮崎、1992）として公表した。ここに紹介するプログラムは、mtin で生成されたファイル群からトレスデー

タの16進ダンプ出力や、トレスヘッド部の10進テーブル、同主要部のリストを得るプログラムである。

地質調査所研究資料集 No. 172

吉井守正（編）（1992）

北上山地堆積岩の化学分析値集. 36 p., 2 tab.

内容紹介

北上山地の堆積岩については、片田正人らによって岩石化学的な研究が行われてきた。その研究に用いられた岩石試料の中から、主として砂岩・泥岩および薄衣相堆積物の主成分および微量元素の化学分析値を公表する。試料は合計310個あり、南部北上帯・北部北上帯・岩泉帯および田老帯の順に、また層序区分のある帯では、下位から上位へ向かって配列してある。これら試料の化学分析は、主成分は主として湿式法、微量元素は原子吸光法、またThおよびUは γ 線スペクトロメトリによった。一部の試料についてはICP法も用いた。